

「親孝行の精神」活動に学ぶ

活動先： NPO 法人 孝行の会

提出月日： 2009年12月3日

1. 活動先紹介

誰もがやがて迎える老いというものに向き合い、その暮らしをともに助け合うという精神のもと、ホームヘルプサービスを行っている。今では聞くことも少なくなった『親孝行』という言葉大切にしている。家族介護者がいなくなった人また、家族介護が困難な家庭などに代わって利用者の日々の生活のお手伝いをしている。子どもに代わってみるといふ、まさに家族の立場に立った親孝行の活動をされている。

2. 当初の活動目的、目標

高齢者の方たちと関わることで高齢者が何を求めているか知るまた、現場で見学、活動等を行うことで、訪問介護におけるあらゆる問題を把握する。NPO 法人として、どんな活動をされているのかを学ぶ。

3. 私たちの活動内容

- ・寝たきりのお年寄りの介護見学
- ・独居のお年寄りに対する生活援助、買い物介助
- ・身体障害のある方のための通院介助
- ・101歳のお年寄りとの対話
- ・70代のヘルパーさんとの対談



以上の内容を中心に、利用者の方とのコミュニケーションを主にさせていただきました。

おもに訪問させていただいたときに、まず自己紹介をすることから始め、そこからヘルパーさんの介護内容を見学させていただいたり、利用者の方と少しの談話をさせていただいたりしました。代表の方と話をする中で、高齢のヘルパーさんがいるということを知ったので、自主的に申し出てヘルパーさんの空いた時間に70代ヘルパーさんとの対談も設けていただいた。そして、高齢であることで当事者の立場をより理解した寄り添うケアが出来ることを理解した。

4. 活動における、疑問、問題点

活動内容が訪問介護なので、学ぶという点からこういった活動ができるか不安があった。またお年よりと話すとき、どんな内容の話をしたらいいのか初めは戸惑った。

5. サービスラーニングを通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

在宅介護における様々な問題を聞くことができた。やはり一つは働く職員の給料のことでした。これが変われば間違いなく介護の現場は変えられると、代表の方もおっしゃっていた。別の金銭的問題では、どうしても利用者の家で行うサービスであるので、そこまで行く移動時間が問題でした。この時間は報酬がつかないことや、利用者宅から別の利用者宅まで行く間の時間がどうしても長くなってしまふということでした。



利用者の方との対話をする中で、多くの方が老齢による障害や病気などあらゆる障害を背負ってでも、がんばって在宅で暮らしていきたいと思っている。しかし、誰もが同じ環境の中で生活しているわけではない。それぞれ違った個性と環境の中で生活しているからこそ、それぞれに見合ったサービスを提供していかなければならないと感じた。

普段経験しないお年寄りとのコミュニケーションで、初めは緊張して何を話していいか、自己紹介もまともにできませんでしたが、代表の方から自分から話しかけるようにさせていただいたことで、徐々に対話することに慣れることができました。これから人生を歩んでいく上での教えともいえます。



孝行の会では、70歳を超えてもなおヘルパーとして働いてられる方が3名もいらっしゃいました。皆自身の体になんらかの障害も抱えられていました。空いた時間を利用させてもらって、談話させていただいたときに、なぜその年になっても活動できるのかと聞くと、「介護をさせていただいて、私たちも得るものがあります」と語られました。私たち若者にはなかなかない考え方で、非常に感銘を受けたことでした。

6. グループ研究の成果を踏まえて今後の学びにどう生かすかの抱負

今回の活動で、私たちのメンバーは他の活動先にはないことを学ぶことができたと感じています。在宅福祉が非常に重要視されてきた今、問題はたくさんあります。そんな中現場で働くスタッフは何を大切に、どういうことをしていかなければならないのか。

将来福祉の社会で働いていく私たちは、こういったことを常に意識していかなければならないと思います。

また、利用者さんとの触れ合いを通して、人との出会いを大切にすることを考えさせられた今回の活動でもありました。もっと人間性ということを考えて、これからの人生を生きていきたいと各々感じています。

7. 活動の提案

施設で行うデイサービスのようになるかもしれませんが、利用者の方どうしが集まって談話できるような、いわば交流会のようなことができないかということがメンバー3人の中ででてきた意見でした。抱えている問題は人それぞれでも、それを利用者同士で共有できれば何か新しいことができるのではないかと考えました。

8. 地域活動から学んだ地域福祉、私達、私の思い、考え方

最後に、活動させていただいた「孝行の会」がもし存在していなかったらということを考えてみました。どれだけの人困っていて、どれだけの人助けを求めているか。想像するまでもないでしょう。地域で必要とされているから活動がなりたっている。単純にそれだけのことではありますが、その裏には活動団体の「こうしたい」という思いと、利用者側の「こうしてほしい」という思いが重なっています。そしてこれらの思いが地域全体としてつながることで、意味のある地域活動となっていきます。地域で活動していく本質が今回のサービスラーニングで理解できたと思います。

